

- 1. ポリオ(急性灰白髄炎、いわゆる「小児まひ」)について** ～現在の日本では流行していません～
 - ポリオウイルスによって起こる感染症です。まひが起こると、主に足の筋力低下や筋肉萎縮が後遺症として一生残ります。
 - 日本では1981年から30年間以上、野生のポリオウイルスによるポリオ患者の報告はありません。世界では、インド、パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアが流行国であり、近隣の国々(タジキスタン、コンゴ、アンゴラ、セネガル、ニジェール、スーダンなど)では流行が起っています。これらの国々から日本に野生のポリオウイルスが持ち込まれる危険性はゼロではありません。
- 2. ポリオワクチンについて** ～～経口生ワクチン(OPV)と不活化ワクチン(IPV)の二種類があります～
 - 経口生ワクチンは主にポリオの流行している国・地域で使われる飲むワクチン**で、ポリオの流行を抑えるためには非常に有効なワクチンです。生ワクチンに含まれるウイルスは生きていて、ワクチンを飲んだ人の腸の中で増えて効果を発揮します。ウイルスの病原性(毒性)を十分に弱めて作られています、腸の中で増える間に病原性を強めることがあります。
 - 経口生ワクチンの利点:効果が早い。流行を抑えることができる。注射をしなくてよい。値段が安い。
 - 経口生ワクチンの欠点:非常にまれに、ワクチンを飲んだ人や周りの人がポリオを発症(ワクチン関連麻痺性ポリオ;VAPP)してしまうことがある。100万回から400万回に1回程度。ポリオを発症してしまうと治療法はない。
 - 生ワクチンがもとでポリオが野生化(ナイジェリア;2004-2005)することもある。
 - 不活化ワクチンは主にポリオの流行していない国・地域で使われる注射のワクチン**で、ポリオの発症を予防するには効果的なワクチンです。
 - 不活化ワクチンに含まれるウイルス成分は、製造過程でウイルスを殺して分解し病原性(毒性)を完全になくしています
 - 不活化ワクチンの利点:生ワクチンのようなワクチンによるポリオ発症(VAPP)が絶対に起こらない。
 - 不活化ワクチンの欠点:注射による複数回の接種が必要。流行を抑える力は弱い。生ワクチンより値段が高い。
 - 日本と同じように野生のポリオウイルスによるポリオの発症がない世界の国々では、経口生ワクチンによるポリオの発症を防ぐために、1990年代後半から経口生ワクチンを不活化ワクチンに切り替えてきました。
 - 先進国でいまだに経口生ワクチンを使用しているのは日本だけです。日本では単独の不活化ポリオワクチンは開発が中断されています。現在開発中なのは、ポリオと三種混合ワクチン(ジフテリア・百日せき・破傷風)を併せた四種混合ワクチンですがまだ実用化されていません。また、この四種混合ワクチンはすでに三種混合ワクチンを完了して OPV が未接種の児には使用することができませんので、そのような方は OPV を接種する方式になるだろうと考えられます。
- 3. 不活化ポリオワクチンの接種方法について** ～～4回の接種が必要です。基本は筋肉注射(大腿)です～
 - 標準的な接種は計4回で、初回接種の2カ月後に2回目、その1年後に3回目、4-6歳で4回目とします。
 - 経口生ワクチンには上記のように、ワクチンを飲んだ人や周りの人がポリオを発症する可能性があるため、それをなくすには不活化ワクチンしかありません。不活化ワクチンは、生後2か月から接種できますが生後3か月以上で構いません。
 - 経口ワクチン(OPV)を一回接種した場合には、4週間以上空けてIPVの1回目、その2カ月後に2回目、そして4-6歳で3回目の合計4回とします。
 - 成人で希望者(特に1975年から1977年生まれ)は、初回から1-2カ月後に2回目、その6-12カ月後の合計3回です。
- 4. 不活化ポリオワクチン接種の副反応について**
 - 他の不活化ワクチンと同様です。世界中で広く使用されていて安全であることが確認されています。
 - 軽い副反応:接種部位が赤くなる、はれる。発熱があるなど。これらの症状は通常数日で自然に軽快します。
 - まれな重い副反応:非常にまれに、ショック、アナフィラキシー反応を起こす可能性があります。
- 5. 予防接種による健康被害救済について**
 - ワクチン接種によって引き起こされた副反応により、重い健康被害が生じた場合には、輸入商社(RHC:<http://www.rhc-net.com> や Monzen corporation;<http://monzen.co.jp>)の「輸入ワクチン副作用被害救済制度」による補償を受けることができますが、予防接種法や独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく給付を受けることはできません。
- 6. 接種前の注意事項** (以下の場合には予防接種をうけることができません)
 - 明らかな発熱(37.5℃以上)がある場合や重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
 - 予防接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合
 - 免疫不全など、その他に医師が不適当な状態と判断した場合
- 7. 他のワクチンの同時接種について**
 - 当院ではフランス産の Sanofi-Pasteur の Imovax Polio(イモバックスポリオ)を使いますが、どの種類のワクチンでも同時接種は医学的には問題なくできますが、国内未承認のワクチンで通常の補償制度が無いために、健康被害が生じるとどのワクチンが原因かが判らなくなり補償が困難になる可能性があるため、他のワクチンとの同時接種はしません。
料金は一回5050円です。不明な点は問い合わせてください。